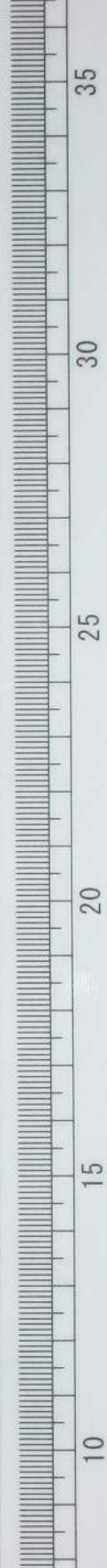


西洋雜記

三

W伊9
3815
3



リ伊
381
卷 3



西洋雜記卷三

目錄

冠并トルバンドの説

ヘルマニニアの帝傳國の寶器の説

西洋諸國の名義

依蘭地の説

印度の人蛇を啖ふ説

キルキツセンの説

エツセドンの説

小人國の説

犬馬諸獸年を経るも心も小なること

初生の時の如くならざるもの説

カンキユツト國傳統の説

アフリカ洲に異類の人物ある説

莫卧兒および暹羅の尊號の説

暹羅國の説

エ鄂國の説

アントロポハアジの説

ヘルマニア國の鬼城鬼塔の説

ヘナシヤ國の都城の説

鐵門關の説

ゲロー子ンの説

ガツリュス河水の説

莫可沙國の説

多鼠島の説

那波里の石穴の説

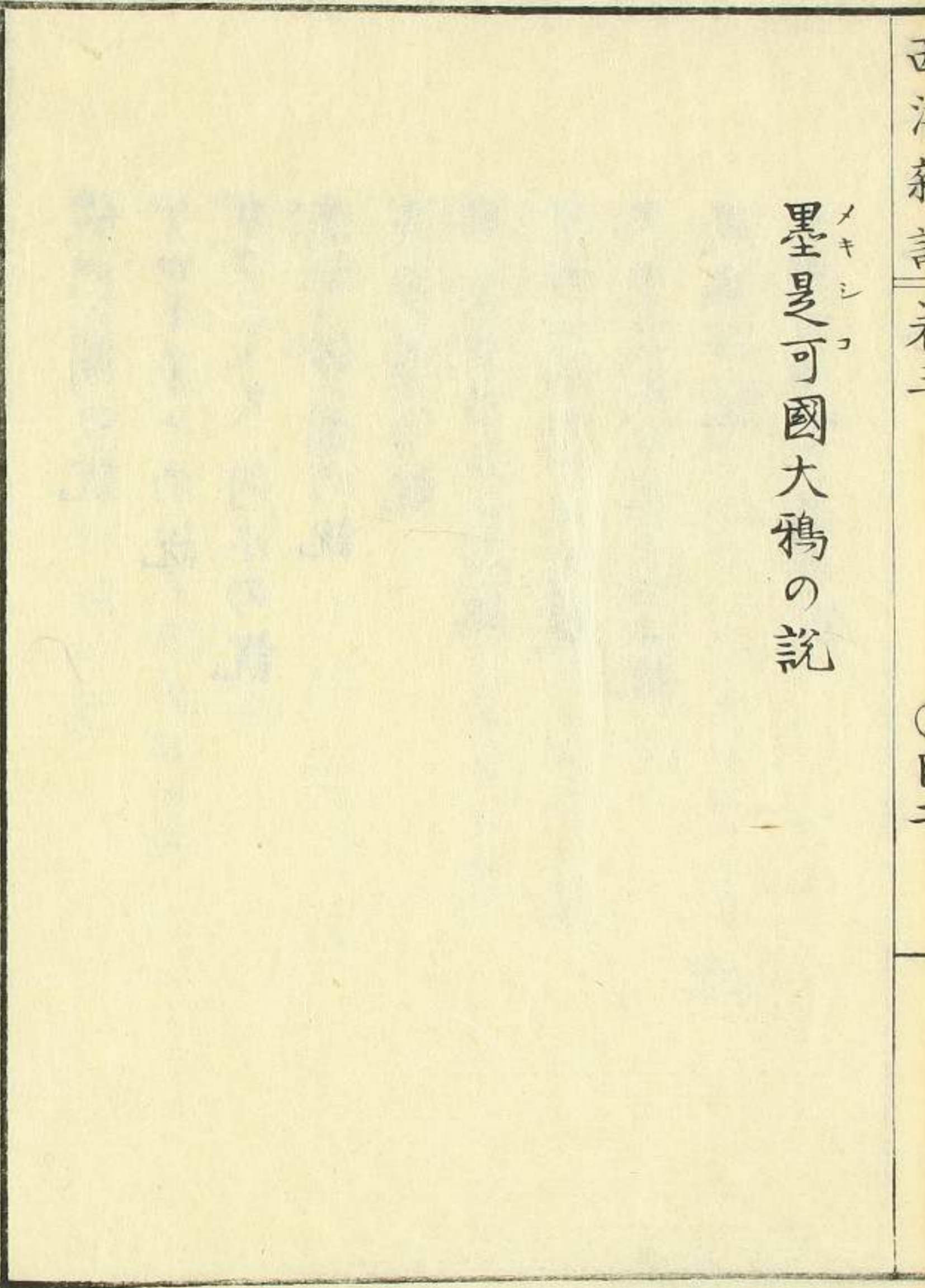
ゲ井ム子エデンの説

不老不死の王とソウ説

風鳥の説

カナアリヤ鳥の説

墨西哥國大鴉の說



西洋雜記卷三

冠并「トルバンド」の說

冠ハ和蘭語「コローン」といふ。歐羅巴の諸國其帝王公
 侯の爵は隨て冠の制各異なり。皆金銀諸寶を以て
 是を美飾し。以て傳國の寶となす。新主世を嗣ての
 ち即位の礼を行ふ時ハ必其傳國の寶冠を戴いて
 群臣の拜賀を受く。古きを名け「ケコローン」といふ。
 是冠之といふ義なり。入ル馬泥亞の傳國の寶器そ
 の第一ハカールゴロート帝所製の寶冠なりといふ。



西洋雜記卷三

(E二)

百見西亞都兒格等諸國の人ハ皆頭ハ布を以て
 旋廻して、ちまきを包んで中にとりて、號して「トルバンド」と
 呼ぶ。つぎを百見西亞の人ハ「フルガツ」といふ。都兒格の帝
 の戴くところの冠ハ「トルバンド」ハ其形大なりて、玉石ちまきを
 飾り、三束の鷲羽を其前ハ挿む。ちまき亞細亞歐羅巴
 亞弗利加の三大洲を表し、ちまきのちかりといふ。馬
 哈默の子孫、都兒格、亞刺比亞等の地ハあるも、此ハ稱
 て「エミルス」といふ。其人ハちまき緑色の「トルバンド」を戴くと
 入ル馬泥亞の帝ハ傳國の寶器十二種あり。ちまきを以て

入ル馬泥亞の帝傳國の寶器の說

井キス。インセゲニア。又ケレ井ノイグイン。いり。其中ハ
 種ハちまきと其國中拂郎菽泥亞道の子ウレム。ベルク城
 ハ藏め、四種ハ其物斯法畧道の「アトケン」城ハ藏む。その
 第一ハ其國中興の聖主カール。ゴロート帝の所造り
 寶冠なり。て、金銀を以てちまきを製し、高さ一丈餘上ハ
 十字の形をたし、すゞとちまき明珠美玉を以て、是を飾
 り、内ハ紅ちまき天鷲絨を以て、ちまきを包む。第二ハカール
 ル。ゴロート帝の環。第三ハ上世より傳ふるやちまきの寶
 劍なり。明珠を以て、是を飾り、銀を以て鞘とする。第四
 ゴウド。レイキス。セラテル。寶器の名笏ハ似たり。王者の把るところの物。第五ハ

「ゴウドレイキス。アツフル」寶器の名よりして形球に似たり 上は黄金の十字あり。第六ハ寶衣あり。明珠を以て飾と云。第七ハ昔より所傳の帝の外套と。甲冑あり。第八ハ寶襪子なり。以上ハ「子ウレムベルグ」城あり。第九ハ美王を以て造りたる寶箱なり。是れ上古の聖人より所傳の物を納む。第十ハ「カレルゴロト」帝の寶劍。第十一ハ「徹戒」を記す乃寶帶。第十二ハ古の聖人所傳の經典よりして「金」字を以て記すもの。以上ハ「アーケン」城より貯るるなり。

西洋諸國の名義

西洋諸國の名。其開基の始祖の名。あるはハラの始興の地名を以て。總國の號となすものなり。意太里亞國ハ上古の世ハ西齊里亞國王イタリウスといふ者。其地を開きて。始めて耕農の業を其土人より教へしよりして。名ク。邏馬國ハ其の開基の始祖ロムリュスの名よりして。名ク。入ル馬泥亜の古名をアレマニアといひます。其の土人ハ今「テウツセラント」といふ。其も其初王アレマニ一名テウトウといふ者の名より。其他和蘭の古名ハ「タアヒア」といひ。第那瑪加の別名ハ「太泥亜」といふの類。皆其始祖の名よりして稱す。

按。晋の時。河南王業延其祖の名を
用いて。國号を吐谷渾と名くる。是類く。す。和蘭莫斯哥未亞
都兒格。スウヰツセル。ランド等ハ。其始興の地又ハ
國都の名を以て總國の號となすあり。され漢郡唐州
後。國號となり。す。我日本の總名を。或大和といふ
らじ。き。者。た。う。ア。ト。

依蘭地の説

「アイスランド」ハ氷地といへる義なり。其島北方大洋中
中。は。り。り。り。氣候極め。寒。五穀と産せ。す。草
木。少。土人獸皮を以て衣となり。魚骨を以て家を
造る。其地夏月ハ絶え。雷。冬月ハ雷甚多。

「又」一異事あり。又此地た。鼠。海船を
む。鼠を携へて此地に往て。是を試む。あ。存
活するものあり。今此國す。第那瑪爾加
の王。屬。思可齊亞の北海「オルガナセ」諸島
の。一。グムス。あり。其地。毒物毒蟲。又
鼠。海船より。鼠。此島。来。忽。死
す。

印度の人蛇を啖ふ説

印度の人ハ好んで。蝮蛇を食ふ。他邦の人の鰻魚を
食ふ。如。其地。一種の大蛇を産。名。

てホイキユアーキユ」といふ其長さ二丈二三尺より
 四五丈よりいふ。太さもさうしてちよき。稱ふ好んが花多き大
 樹の上より旋廻し野羊熊鹿の類を生吞り。國人方を設
 けし是を捕りて。さうして以て食料とし。彼地は居るさうらの
 歐羅巴人も好事なる者ハ。さうして彼も效してちよきを食
 する者ありといふ。

按ふ此大蛇又アメリカ洲に産して。テイウポツ
 と云人のアメリカ紀行に曰ハライバといふ所にて
 予此蛇を捕りて。その長三丈餘太さハ大
 桶のさうして。淡黒色なり。ちよきハ其地の里人等其

邊の野よむらして。此蛇の野羊を吞を見て。了かなをち
 袖筒十三を丁齊セイよ癸し。其蛇の頭を碎きて。是を
 得たり。其野羊蛇の腹を裂て出さる。此蛇ハ他
 の蛇より毒なり。故に里人ハ。いさ及たむ。
 「ポルトガル阿蘭陀ホルラントの人も其肉を食さる。

「エツセドンの説

まゝタルタリア韃靼部中「シケイチ」の邊に一國あり。エツセトン
 といふ。其國都もまゝ「エツセドン」といふ。其俗父母至親死
 すれば。則相聚りて其屍を食ひ盡し。さうして其頭を雷めて。
 其上に金を貼し。是を貯へて以て神と稱し。毎歲一

たじ是を奈るべし。

小人國の説

和蘭語よ小人を謂て「テウエルゲン」といふ。プリニウス人の書小曰小人國ハ東方印度の深山の中ありと云ふ。スタフボ人の書よハ亞弗利加洲の邊境よ地ありて其説よいよく小人國其人形軀甚短小にして長僅フカよ一「エルレン」エルレンハ此方の曲よ過スぎるハ歳をとりて老トナリと云ふ其婦人一産ウチうたふ五子を生むその孕ハラむれ間ハ僅よ三月よすぎり鶴鳥時として其人を吞食ふ故よ小人相聚りて恒よ鶴と戦争し子を生むとき

ハ洞穴の中よ隠き居て以て鶴を避くといふ又アリストラ人レス名の説よハ小人國ハまゝニ泥祿河アフリカ洲の大河の近傍よありといふけレミナ其詳あるとハ知るべしといふ又思可齊亞國の属「ウエステルセ」諸島の中よありて一島ありて稱して小人島といふ此地よ於て地を掘りて其深底よて小人の遺骨全く存するものを掘得ると多し蓋此島昔時ハ小人ありて居りてとあるを知るべし故ようくの如く小人島と名くといふ今小人國と稱するもの凡三地あり其一ハサモエデン地也其地莫斯哥未亞北邊海よ傍よの地として其北ハツアイ

カツト」といへる海峡を以てイハセンガラ新增白臘の地と對ひ其人
 形軀甚短小にして乾魚および蜜を以て糧となす。今
 ハ莫斯哥未亞ムスコビヤより是を治め其人は教を施し其二は
 新增白臘ハセンガラなり其地北海の中よりあり其人まづ形軀
 短小にして所居の室屋まづ是は稱ふ身は海獸の皮
 および鳥羽を披く衣となす。日月を神となす。是は
 祈禳は其三ハスタラート。デアヒスダリスなり。是臥兎狼徳
 の西海の濱よりしてアメリカ洲の「ヤメス。エイランド」
 といへる大島と對ひる地なり。其人もまづ形軀短小
 して皮を以て衣となす。あまを見つゝ容易は其男女は

辨識するをうへび身體の色素はあまづ白くといへり。
 魚脂を塗るが故に其色恒は甚赤黒たりといふ。

犬馬諸獸年を経るといへども小なるものぞ

初生の時の如くならしむるの説

クエツデマンが奇方秘函に曰「ヨードン上卷のいへるごとく古
の如徳重人の子孫」の馬保アブラハム。ラサラスといへる人うつくし礼勿泥
 亜國の事もあり其地の「レキツ。ゲレエルト」官名と云ふ
追考すべしの子の厄お逢ふを救ひしとあり。是よりより謝す
 る一疋の甚小なる馬を贈り且その奇術を教ふ其
 は馬犬猫等および其他の諸獸皆あへて長大ならん

して小なるを初生の時の如くならしむるの法なり此
 時彼処より見ざるふたゞ馬のみならずそのレキツ。
 ゲレエルデの婦の畜ふやしろの一の極め矮小なる
 犬あり是を以て是の如くならしむるの
 ありといふ其法犬馬諸獸生むる數日を経眼始め
 て開く此時於て焼酎すゝむるは小麦の粉并
 よ紅珊瑚のよく擣きて細末を以て之を四支以て
 是を餌せしむる則ち此獸壽はよく其天年を保つと之
 ども形の小なるを以て其初生の時は異なるべし其法
 ハ容易なりて事ハ太奇なりて以て玩物具ふべしとて

カンギユツト國傳統の説

南印度「カンギユツト」國ハ安日河の流に近くして此地
 地稍大なるを國人其主を稱して「サモシリ」として是土地
 の神といへる義なるを此國主の世ニ傳統の例かちらば其
 姉妹の子を立て位を嗣がしめて其王の至親子弟ハ
 あつてその統を嗣ぐことを得ばといふは一大異事
 なり。

アフリカ洲の異類の人物の説

アフリカ洲ハ地勢三角をなす其大なるを「欧羅巴」
 倍ハ其邊海の諸國ハ地み多きを以て豊饒ありといふと

も其内地ハ赤き也及して氣候酷熱なりて水泉絶つ少
 なく曠原荒沙ヤもすれば數百里に亘り猛獸鷲鳥
 毒虫等極めて多く他邦の人跡至りて其の地ハ
 地氣うくの如く極めず偏たるが故に其人物風
 俗甚殊異なりて絶えて人類小非ざるもの有り或
 初て子を生む必赤きを食ふ赤きを以て多子を生
 むは吉利なりとすものあり或衆數萬を聚めて
 恒に遷移して居を定めず至るの地毎小其人民鳥
 獸虫類小至るもの悉く其地の生命をたや
 してのち他方へ徙る者有り或其人聲音舉動す

びく犬は同じき者あり或は此胸上は眼ある者も有
 りといふ此の事ハ二三百年来西洋波爾杜瓦爾
 國の人其内地は邊は通商して傳聞するものあり
 又其海邊絶海の地は一國あり「エジパンス」と名く其人
 みな人身半足ありて裸體その走るも甚速なり又
 一國あり「アルピノス」といふ其國の四面ハ皆黒人の地な
 りといふも此國人ハ其色みな甚灰白なりて恰死
 人の色の如く絶えて生人の色はあらざり故に近傍諸國
 の人みな赤きを稱して鬼魅とて敢相通するものな
 りといふ

莫卧兒モゴルあふい暹羅シヤムの尊號の說

大莫卧兒國本名「モゴリスタン」といふ其始祖タメルラン
撒馬兒罕國サマルカントより業を興して天竺諸國を破滅し今印
度第一の王者なり「モゴル」ハ即其國主の尊號なりて
「アジア」洲中よ於て金銀寶玉明珠諸珍寶を富める
ものと最第一なりて兵威強盛ある至尊大君といへる義
なりとす暹羅の國主その名號を其國の方言小
て稱するところ甚長し是亦尊號なり是を義譯
すば天より保護するところの神聖の尊體をりつて
暹羅の大國を治め「ユテア」上都に居て兵威無雙なり

て一百の王侯を服従し金冠の寶位を昇て黄金美玉
の宮殿に座し百玲萬寶を擁するの義ありといふ按
よ唐土漢の時の匈奴の表に天地所立日月所照匈奴大
單于と稱し隋の時の突厥の表に自天生大突厥天下
聖賢天子と稱するの類なりて且寶物と以て尊號とい
ふことまことに奇事なり

暹羅國シヤムの說

暹羅國其地安日河の東にあり南ハ北極の出地十度
起りて北ハ十八度に至る其周廻凡五百餘里日本の一支部
の西南諸蠻の内よ於て其地最大なり隣傍の真臘チナム

滿刺加マラカは是は臣服し國內分て十一道とて其國都
 を「ゴテア」といふ。又「オデア」はその國王所居して其宮
 殿の制度甚美麗都内の人家凡四十餘萬王の親衛の精
 兵恒は五萬人を備ふ凡此國近世兵威甚盛して事ある
 て兵を召すとてハ暫時の間よく大軍を出し王出ると
 きハ屋を象に駕して幔幕を設く大臣諸將象に駕し
 て是は後より者多し兵器ハ銃砲弓矢刀鎗種々全備ハ
 水戦ハ王の大船ハ美麗ある幔をもつて是を飾り
 諸の戦艦是を圍繞隨後一夥く砲を設けて外面に
 備ふ恒は兵を用ひて其隣傍の阿瓦亞刺取アハア琵琶牛ベガウヤ

「ンゴマ」等諸國を征して多くハ勝利あり諸國皆是と
 怖る國中すべく佛法を崇信すその寺觀佛像教法
 等すべく多くハ亞刺取國アハカと相同し其人色多くハ黃黑
 衣服の制すく他の印度は類す人家屋室の制多くハ
 大竹を用ひ椰子樹の葉を以て屋を覆ふ國人皆妻妾何
 り其妻たる者ハ皆その門戸相對の家より迎ふる者よ
 して貞静を主とし妾たる者ハ皆賣鬻バイヤウするもの賤人よ
 て拘束コウソクする者なり妻の生むところの子ハ其家を嗣カニハリ
 女子ハ相對の家は嫁ひ妾の生むところハはもて奴婢
 となし富人ハ或ハ些少の家私を分ち田宅を授けり

何れ大抵その風俗和怡魯鈍なりといへども其内智慧
 ありしものまじりて文學諸藝地理航海商賈等の業を
 能すといふ寛永中播州の人宗心と云ふもの再此國へ
 渡海其宗心が話を書し渡天物語といふ書一卷
 宗心ハ世より天竺徳兵衛といふものなり此書宗心が記せ
 るよハあらば空永四年ハ或人宗心が談話するところを記すものなり
 此時宗心年ハ十九歳といふ其書中ハ記すとあるれ風俗物産の類ハさ
 りるべしを記す地理古跡等を記すとあるハ極めて疑
 ぶべくして信ずるよ足らば其宗心書中ハ云某地ハ達磨出生の
 某の佛寺ハ須達長者の遺址なり地あり某の地ハ摩竭陀國の地なり
 ヒスウといふ城あり此處昔空海と文殊と智慧論せし所なり又云ウリ
 説などハ何の證據あるもや凡昔より日本に諸僧渡天と
 といハ皆偽なりといふ渡唐して學問をなすもの日本は歸りてのち

我ハ渡天といふなりをいして人を欺た信ぜしめたるなりいはんや
 空海ハ唐土よりハ名譽をたらしける人なり渡天の事ハ空海自
 作の諸書并にたゞしある實録ハなきとあり考へ知る能はるなり然し其宗心が携へ
 来りし貝多葉ハ文字を記せしもの浪華の蒹葭堂
 および東都の本田氏各一葉を藏り並に暹羅國の文
 字なりといふ細針の如き物を以て葉上ハ刻畫し
 たる者なり世より此貝多葉ハ別物といはる椰子
 の葉なり其辨蘭畹摘芳中ハ詳なり

工鄂國の説

工鄂ハ亞弗利加洲西海濱の大國より古より政羅
 巴ト通せず西洋中興第一千四百八十四年
 日本文明十
 六年唐土明
 の成化二十年
 甲辰にあつた小波爾杜瓦爾國王ヨハン子ス第二世の王の

時よ何々して其國人ヤークツフ。カニスどソウ者始め
 て此地よソウ。其國東ハ亞毘心域國よソウ。西ハ大洋
 よモウ。南ハ馬拿莫太巴。北ハ喝叭布刺。接ハ北ハ
 為匿亞の諸部よ界して中よロアango安卧辣。エ鄂ゴ
 イハツタ斑我ツンタ崩罷ヘンバ等の諸國を分つ。
 其地すゞ川流多く土地肥沃りて夥く香櫞橘柚
 の類を産れ又多く椰子を出し是を以て搾りて酒を
 釀れす其レリュンデとソウる河水の邊よりソウ。ジン
 ト。サルハドルの地よ且るまでの間ハ則獨鹿樹堅木名及種
 ニ佳菓をむすぶの樹滿列れ和蘭の人多くハ此地より

〜香桂を得るとソウ。此地所産の象ハ他國の産小比
 すきバ最大なり。一牙の重さ二百ホン一ホン九十六斤又エウ
 チーンジとソウ鳥也。其皮甚貴。王侯の外ハ服と
 あす。ソウ。其入皆多くハ黒色なり。奴皮亞ニヒよ
 比為匿亞等の人よ比すきバ尤黒くソウ。且醜。其性
 和怡りて外邦人遠くソウ者あまざる。皆ソウ。是を
 礼待れ。身軀柔弱り。力少。歐羅巴の人一を以
 て其十よ當るよ足る。俗錢貨を用ゐることを知らぬ。小
 小た金銀のつゞ。鍊らざる塊塊をもつ。物よ交易す。酋
 長貴人ハ頭小方巾を戴た。孔雀或駝鳥の羽を以て飾

とならば其上體ハ裸身ハ鎖カの如きものをハ胸背をつつむ兵器ハ唯弓矢短劍のハたまく小銃を用ゐる
 馬泥マニといふもの多し馬泥工鄂マニハムママニマンバンダマニ等の
 號あり波爾杜瓦爾國ボルトワール人あり至りてより地を開拓
 衆を植ウこれ諸地ハ抛り「ロアンダ」「シントパウロ」等
 の地小城郭を築き酋帥シウスを署シヨ又其の安卧アンゴラ辣國王を
 擒コりて千六百六十七年ハ其地を里西波亞リスボアの都ボルトワールの都
 へ送り其地の銀鑛カウを開くマニ僧官を遣シて政教
 を施シ此諸國の人今大半其教ハ帰服すといふ

「アントロポハージイ」の説

上古の世ハ「ギリキス」國の中ハ一種の人肉を食ふ
 の國あり是を「アントロポハージイ」と稱せり今
 「アントロポハージイ」と稱するの地ハ亞弗利加洲の中ハ
 ハ曷カハ布刺ブル贊西拔ザンシバ等の海邊の地及び「マロコ」國等
 の内ハマニまマニあり亞墨利加洲アメリカハ伯西ボシ鬼キ
 及び「デルラマゲツランカ」の部内マニまマニありて
 皆人肉を食するの徒なり近世より伊斯把イスパ亞ア國等
 の人多く其地よりマニまマニて教化を教シて悪俗ヤ
 うマニくマニ改シりて其内地絶遠の処ありて

尚いまた其化流行するまじくつらげといふ。

入ル馬泥亜國の鬼城鬼塔の說

入ル馬泥亜國「子デルバルツ」の地は高山あり。「クエドリ
ンビュルグ」といへる城を去るまじく一里なり。此山上は長
た垣あり。あつちの城を建たるまじく似たり。皆大石とほ
つめく砌成して造築をたすまじく奇巧なり。此所ハ山道
まもめて險阻艱難なり。絶えなく人工をいふまじく蛇の所
まもらる。傳へいふ古の時ハ鬼神の造建するまじくなり。
故に名けて「ドイフルス。ミユル」といふ。ドイフルスハ鬼魔ふ
又同國中窩失突利亞の内なる。大掣比といへる大河

の曲流するまじくつらの高を岩石の上頂は奇巧なる高塔
あり。上層は蓋なり。ちよむり。「ウエルツビュルク」地名乃
僧官ブリユクといへる人の徳は感して鬼神ちよむを造
るまじく。故に名けて「ドイフルス。トールン」といふ。

勿櫛奈亞國の都城の說

勿櫛奈亞ハ意太里亞國の中より東北邊の一國なり。
世及せざる自立の主あり。是を治む。ちよ皆國中ハ
世家の中より一の最功德ある者を推して主となん
るのちり。其都城も又勿櫛奈亞一名「ヘニセ」と名く。ち
よ「ラギユサ」といへる湖なる。湖中はあり。此湖中は

七十二のちたすもづいなる島ありよより是
 又撥く木を椿となく城を水中に建つそ此周廻凡
 八里城中の街衢皆島上にあるがゆゑ其幅多く狭
 五百餘処は美麗なる橋を通じて以て往来に便に城
 中すべし水たすもづいなる國人船を造るも甚巧なり
 其最大なる橋を「イルポニテアルテ」と名く悉「マルメル
 の名」石を以て造建し橋上の西邊は美麗なる人家
 を建列し其橋甚高くして大小の風帆恒に橋下を過
 ぐ此城中は美麗なる宮殿一百五十餘処七十の大寺
 觀三十九の男子の説教処二十八の婦人の説教処十八

の大神祠十七の大きな養病院一百十五の高臺五十三
 の大小互市場五十八の飛泉湧水百六十四処「マルメル
 石を以て造る」古人の巨像二十三処は金銅の類を以
 て造る巨像ありあり

鐵門關の説

亞細亞洲日阿爾日亞國は名譽の城地あり「テルベント」
 と名く北高海を離るるに九三百餘歩其城一の山上に
 在り要害きまめて堅固に地勢狭長にして道路
 險阻あり百見西亞等の諸國より北方諸國に往来
 する諸方咽喉の要路なり初は百見西亞國の王あり

を有^{タモ}ちりり^とと。千七百二十二年^{日本の享保七年。唐土清の康熙六十一年壬寅}。莫斯哥^{ムスコビヤ}未亞^{ムア}國の伯多^{ペトル}球^レ第一世の帝。兵を遣^ハてして。其を奪^ヒ取^リて。守を置^キて。是を治^ム。此地を都^ト見^ル格^コ國の人ハ呼^ブん^ド。デミルカ^カじ^トり^ト。是鐵門^トと^シる義^ヲ。其要害堅固^{ナリ}。世^ハは^シて^モ。其の^ヨり^ノ名^クる者^ナり。按^ヨ。明^セは^ハ刻^スる^ト。其の萬國^ノの圖^ハ。北^ノ高^ノ海^ノの邊^ニ。鐵門^ノ關^{アリ}。す^レ。元^ノの太祖^ノ西域^ノ諸國^ヲを破滅^シて。西^ノ方^ニ鐵門^ノ關^ニ至^リて。還^ルる^ト。諸書^ニ見^エる^ト。思^フ。此地^ナらん^ト。尚^ホ方^ハ未^ダ。す^レ。亞刺比^{アラビア}亞國^ノの人^ハ。此地^ヲを稱^スん^ド。ハツ^ツ。アル

。アビユアブ^トと^シ。是ハ諸門^ノ關^中の關^トと^シ。義^ヲと^シて。其堅固^ヲを贊^スる^ノの義^ナり^トと^シ。

「ゲロー子^シ」の說

韃^{タル}韃^{タリヤ}部^中の是^ニ的^{チヤ}亞國^ノ。歐羅巴^{オウロパ}は^ハ近^キき^所ハ。一國^{アリ}あり。名^ヲを^シて「ゲロー子^シ」と^シ。其人^ハ。其^ノ身^體ハ塗^リて。種^ノニ^テ。彩色^ヲを以^テて。其^ノ形^ハ。其^ノ身^體ハ塗^リて。奇怪^ナり^ト。怖^ラる^ト。べ^シ。馬^ノ乳^ハ血^トと^シて。其^ノ色^ヲを食^フ。是^ヲを最上^ノの美味^トと^シ。人^ハ皆^テ武^ヲを好^ム。小事^ハをバ^ツと^シて。争^ハ戰^ハん^ト。大^キ仇^ヲを獲^キて。其^ノ皮^ヲを剥^キて。己^ノ身^ニ纏^マふ^ト。衣^トと^シて。以^テ其^ノ功^ヲを表^シと^シ。

ガツリュス河水の説

小亞細亞^{アヒアミナ}フレイジア^{アヒアミナ}此地は河水あり。ガツリュス^{アヒアミナ}とち
づく其源ハゲレニス^{アヒアミナ}と云ふ大山より下りて流れてセ
ニゲル^{アヒアミナ}と云ふ大河に合はる。此ガツリュス^{アヒアミナ}の水其味極め
て甘美にして是を飲めば人を酔もめく。身體を
快暢^{アヒアミナ}し腦^{アヒアミナ}を清潔^{アヒアミナ}しす。はやく老を以て衰弱の症に
用ゐる。甚功ありと云ふ。

莫可沙國の説

北亞墨利加洲^{イルドアメリカ}の新渚厄利亞國^{ニューハアミナ}の邊は一種の夷狄あ
り。號して莫可沙^{モウカサ}と云ふ。其人皆野獸の皮を以て衣とな

す其形状甚怖るべし。性質きまめく強暴野鄙^{コウボウヤビ}にして皆
盜賊を以て業とし。故に他邦の人皆その寇掠^{コウリヤク}を怖る
く。其釐暴無智なるを察し。恒に計を設けく。其邑を
破逐^{ナク}り然るに其部中皆盜を以て業とす。と云ふ。
又法あり。其骨肉長者の物を盗むことを禁む。若是
を犯すものば則是を捕へく。生きたらば土中へ埋
むと云ふ。

多鼠島の説

亞弗利加洲^{アフリカ}聖老楞佐島の邊は一島あり。マウリツツ^{セントラウレンス}
と云ふ。此地島木を出すこと多し。故に喜望峯^{ホウテントツト}と

鎮する和蘭の人其所領の地の野人を遣わして其木を
斫り取りしむ此島氣候融和して絶えて毒物なし
然るに満島皆鼠にして其多きと計ふるは勝る
らびと云ふ

ゲ井ム子エテンの説

黒地兀皮亜エナオピアの中は一種の國あり黒地兀皮亜ハ亜弗利ケ井加洲の黒人諸國を云
ム子エテンム子エテンと名く其人皆裸體裸にして衣を著ることを知ら
ず常し弓矢を挾サシみ猛獸を射し其肉を食ふ水澤の間
は洞穴を鑿ウガちて是に居るその水を飲みちては浴す
且穴中より居て獸を射るは便り然るに其地

虎豹猛獸カをめて多きを以て睡眠の時よちて咬カみ食
ちしんカと畏る故に夜に至ると皆大樹の上より卧して
其害を避くといふ

不老不死の王といふ説

拂郎察國フランソワハ歐羅巴洲中の最有名の大王国なり
地もはる甚大なり皆一王の有る属す國中分ちて
十二道となり皆守令を置く其太祖フランコスといふ
者ガツリア國に代りて國を建てのち其王サリス
聖徳ありて悉國法を定め國人其徳に服し其
よりの其王子孫相嗣し専天に代りて民を救ふを

以て務となり。國勢日よ盛りて。近傍諸國多く去きて
 歸化し。今に至るまで。凡一千四百年。國法礼法
 て。たゞそと禍札たう。國富物饒。人々其業を
 樂しむ。故よ世よ此國王を賛稱。長生不老不死の
 君といふとあり。

近年勃那把尔帝の大丸あり。此書古の以前の説より。

風鳥の説

俗より風鳥ハ南懷仁が坤輿外記よ。無對鳥よ作る。和
 蘭語よりハ「ハラテイイス。ホーゴル」といふ。西書よ所載の
 説。磐水先生の蘭畹摘芳中。すて譯文ありといふとも。

今又ボイスの書ハ所載の説を得て。左よ記す。

ボイスが所撰の學藝全書よ曰。ハラテイイス。ホーゴル和蘭
説「ホーゴル」ハ鳥なり。ヒフ子ルス及びウライツの書ハハラテイイスハ
此鳥昔ハトルコの属ハラテイイスの地より産んと思ひてうくのてり。
名くし。まてハレンテイインの書ハハラテイイスハ太虚なり。此鳥太虚
の中を飛翔して地よ下りてあきよよりて名くし。まてハレンテイインの
摘芳よ。一名「マニニコ。ヂアタ」又名「アヒュス。ハラヂシアカ」と
詳るり。
 此鳥ハ一種の奇鳥なり。其羽毛華彩繁爛サシる者
 なり。此鳥其羽毛翅翼を具ふるうら。他鳥とは甚別
 なり。いんとなきハその胸より。甚長き羽を生
 て。尾よりも長く。且廣き。故なり。此鳥大抵す。其
 其尾テの所より。二條の長糸系の如くなる。毛を生

して其色黒く羽とハ異なりて。且全身の羽よりハばな
 らざ長し。眼ハ其頭の諸部ハ比すきバ甚小く喙ハ細く
 瘦てあるカモ鶴鴿の喙ハ似たり。窮理の諸學家及
 び諸の此鳥を産するの地方ハ旅行セー人の説ハこな
 此鳥ハ數種有りといひ。ライといふ人の説ハハカ鷲
 鳥の一種なりて。其小なる者なりといひ。此鳥のま
 世ハ所傳の誤説數條あり。或ソモく此鳥ハハカ氣を服
 す飲のミヨリて。別ハ飲食する事ナシ。又其足なく
 空中ハ飛翔して。あへく地ハ下る事ナシ。故ハその或
 年老い。又ハ病ハよりて。おのづから死して。地ハ落つるも

のや拾ひ得るのミナリと。又あるハ曰。此鳥ハハ曲アテ其
 尖利なる爪何也。故ハ鳩等の諸小鳥を追テ。是を捕へ攫
 裂きて。是を食ふ。其狀猶他の鷲鳥ハ異なり。然も
 いハカモからハ皆虚説なり。信ずべし。凡カの鳥ハ高
 樹のミヨリて飛翔するナリ。其輕捷なる事ハあは
 び燕ハ同ト。故ハ印度の人ハ此鳥を名テ呼びて。テルナ
 アテの燕といふ。カモの「テルナアテ」の地ハ多く此鳥
 を産するハ故ナリ。又ヘルヒジウスといふ人の説ハハカ
 鳥ハカモ印度地方の最南諸地ハ出づといふ。カモ路古五
 島の一「キユリユスシウス」といふ人の説ハハ此鳥を定めて大

小の二種とす。其大なる者ハ「アルウ」の諸島より出るとの
 よして、彩色最美麗。尾翹より〜の長毛有り。又
 其小なるものハ、巴布亞礼新為ガイマア匿亞等の諸地より産す
 るものよして、大なる者。比すきバ、美麗ならび且尾
 翹の長毛なく、羽毛の色白くして、且黄を帯びたり。
 九士の大小二種の鳥との。其中は鳥王あり。それ形他
 の鳥よりハ小よして、其飛ぶと最高きとあり。是を
 辨別し、其羽毛最光彩有り。それ尾の小なるものとあり
 りして、又二の長た羽を生じ、他の鳥ハ、此鳥王より後
 ひく飛ぶ。集るの時としく、亦是を以て識別すべし。

その上又馬尾に似たる毛有り。末の所より一束となりて
 何つよりて旋廻モリニツクし。最末より〜ハ毛彩有り。羽のさ
 々々なるあり。

此鳥モリニツク歐羅巴洲地方は好事家甚きと貴重ハ馬路古
 地方よおいてハ、此鳥を呼て「マニコヂアタ」といふアルド
 ロハンチユスといふ人の説より、是神鳥といふ義あり
 と。然るも其神鳥と名けたるゆゑ、いふに詳あらば
 允此鳥、その大なる者ハ、身の大きハ大抵鳩のごとく
 して、翅ハ赤色なり。ヘルヒジウスといふ人の説曰、此鳥は
 産する彼炎熱ある地方、常は陰雨多きの候より〜

九箇月の間ハ此鳥の羽毛脱落する多ク然ルモ歐
 羅巴の八月の候ハ其鳥の羽毛脱落する多ク然ルモ歐
 至リク羽毛再生ト然ルモ其鳥王トシテ其鳥の
 集ルモ猶我歐羅巴の「スプレエウウエ」といふ鳥ハ
 似たり此鳥恒ニ止宿すルモ其鳥ハ揺動すべからざる高
 大なる樹上ナリ日夕ハ其鳥ハ諸鳥相率リ一処ニ
 あつまる其鳥王の側を避け次第を逐ク其鳥ハ宿ル
 それ食とするとも其鳥ハ一種の甚高クして枝多
 大樹ニ生する赤色なる小菓實ナリ人其の恒ニ止宿
 するところの樹を認め其枝上ハ小窩巢を造ル

多くの小穴を外面に穿ちて、しうらうの其中より居て
 其鳥の樹上よりつと止宿するを待ち、其鳥は近づ
 き、蘆管より造る小箭を以て是を射殺し、
 其鳥王を射落すと、諸鳥其鳥を見、あへて動き飛
 ぶ、人ハ射らるるを任せて、悉地上に落つ、其鳥は
 此鳥の腹を剖き、一箇の鉄器を焼きて、其鳥を腹中刺
 入して、其臓腑および肉等を除去し、これを烟窓の
 上懸け乾す、その後は商賈の徒ハ鬻ぐ、是を號シ
 て「ビュラング・ハリーリュウ」といふ、然ルモ波爾杜尾見國の人
 ハ此鳥を名ヤリ、日鳥と云ふなり。

巴布亞私島の土人ハ此鳥の黒色なるものを捕へ獲く。其足および翅を截り去りて、あまをひらぎ、其羽を束ね、あまを、修飾して、其所用の中の頂にあまを戴く。此種の鳥ハ其羽美なる黒色あり、且紫色透明、其間は金色より甚光彩あるもの雜り、其尾翮はよく青緑赤等諸色をまじり、甚光澤あり。

凡此鳥の羽毛の色種ニ甚多、故に諸家の圖画するところ、其形色殊別にして、一ならず、今詳にあまを、何つめ考ふる、其頭の色美麗にして種ニなり、あるは頭の色諸種相雜するもあり、然して其大なる者ハその

色最美にして、透明光澤あり、其頭すべて赤きものも、稀なりとす、其他ハ青色緑色黒色黄色金色柑子色等種ニあり、大抵その頭及領の上面ハ黄にして、その咽くびハ緑色、其背および翅ハ赤を帯びて、赭栗色にして、其羽長くして、是を掩ふ、此羽の長くき、ソレらの尖末ハ灰白色白色黄色黄赤等を帯び、此諸色の羽聚りて一束となりて、色も又諸種混合す、故に美觀とするなり。

此鳥其雌雄を分別するの法ハ他なり、其喙と尾翮を生ずるの長毛とハ赤色有り、あまを以て識るなり。

「カナアリヤ」鳥の説

ヒブ子ルスが萬國傳信紀事。曰「カナアリー」カナアリー「ホーゴル」カナアリー「アフリカ」西海中ありて其鳥大小十二あり。カナアリヤハの總名なり。一名「デリユキフ」エイラニデと云ふ。漢は福島と云ふ。皆「イスパニア」一名「セリン」テ。カナアリー一と云ふ。此鳥その始めハ「カナアリヤ」島より産出故。よりのごとくは名。其形「ヂステル」ヒンキに甚相似。一種のチステル。ヒンキハ。此羽毛美し。色種ニあり。轉聲美なり。巢を高樹の上ト作る。ヂステルハ薊アカミなり。此鳥好んが赤薊を食ふ。故に此の如くは名。其腹ハ多くハ黄し。灰白色を好む。又此鳥其色白きもの。及び尚其外種ニの色をなす。

有り羽毛綺麗し。轉聲美あり。其聲佳なり。そのとハ笛等の樂器をよく法をとり。あはし。示し。遂はよく其聲を佳し。今ハ此鳥入ル瑪泥亞國ホルラント和蘭國エウロツハ及び其他歐羅巴洲中の諸國。皆多く是を産出。此鳥の雌ハ。チステル。ヒンキ見と交りて。雛を生ずる。その第三度めは。雛ハ。その頭ハ「ヂステル」ヒンキの如く。體ハ「カナアリヤ」鳥の如く。其轉聲ハ。あはし。此鳥雛を生まんとするの候は。ハ。蟻の卵を餌とす。又或麻の實の類を食む。又此鳥

西洋雜記 卷三

十四

病ありて、頭は腫物生ずる。何らハ雌雞の脂を塗る。或は其腫物熟して潰瘍を成すとす。彼脂を煮て、くらく塗りて、遂はよく治す。又或此鳥の羽毛は、貴つくとあり。あれ時ハ、凡の種を何れハ、毎日三度づ、酒を以て其羽毛を煮め、和け、日光のあたる所は、あつて、凡此鳥ハ雄なるも、此ハ雌は比す。其身體細長あり、尾長く、轉聲最美なり。

墨是國大鴉の説

北亞墨利加洲墨是國の地ハ、一種の鴉を産ハ、あれを名ぞて「アウラ」又「カツリナスメ」とす。其大さあつても、鷹

の如し。土人は是を「トロピロチ」と名く。此鴉色黒く、其喙ハ、すちぶる。鸚鵡に似たり。新伊斯坦把亞國中ハ、あつて、ハ恒に見ると、つらなり。多く其巢を大樹の、いハ、岩石の間ハ、造る。其雛生じ、始めハ、白く、長ずるハ、後して、黒色ハ、變じ、其飛ぶ、甚高し。其心臟を採り、日ハ、乾らば、其香氣甚強し。其肉ハ、痘瘡ハ、用いて、甚效ありとす。

西洋雜記卷三終

